

## 29年度の活動について

代表理事 青野淳子

団塊の世代が後期高齢者となる2025年には約38万人の介護労働者の不足が予想されている。この不足を補うために外国人人材の受け入れが検討されている。我々は昨年度に引き続き「看護・介護人材の確保と育成」を主たるテーマとして活動した。

- ① 昨年6月にはベトナムのタイビン医療短期大学と合同で、「卒業生のための日本語講座」を開設した（写真左）。看護科卒業生で日本での就労希望者に対しベトナムで一定レベルまでの日本語能力を習得させ、日本の介護専門学校へ入学させ、卒業後は日本の介護施設で働いてもらうというプロジェクトの一環である。学生と場所を大学側が提供し、当法人は日本語教育を担当している。第1陣講座参加者は22名であったが、日本語習得はなかなか困難であり、現在約7名の学生が2019年4月に専門学校に入学できるものと期待される。



ベトナムの学生は介護についての知識がほとんどないので「日本の介護について」の講演会を開催した。また日本で活躍するEPA看護師及び介護福祉士候補者を演者として「先輩の経験談と相談会」を開催した。

- ② ベトナムの学生は介護についての知識がほとんどないので「日本の介護について」の講演会を開催した。また日本で活躍するEPA看護師及び介護福祉士候補者を演者として「先輩の経験談と相談会」を開催した。

- ③ ベトナムにて日越合同セミナーを開催した（2017年9月27日、タイビン医療短期大学）。当法人は日越看護教育内容の違いについて発表した。参加者は保健省、近隣大学・北部医療短期大学（10校）より約43名で、熱心に興味深く聴講いただいた。（写真右）



- ④ ミャンマー（ヤンゴン）にて調査を実施した。目的は、介護事情、介護技能実習生送り出し機関の実態、日本語教育の状況を把握し、介護技能実習制度活用によるミャンマーからの介護人材の確保と育成について可能性を探ることである。ミャンマーでは“高齢者は家族が看る”という文化である。介護施設に入居しているのは身寄りのない高齢者である。我々は2つの



老人ホームを訪問した。いずれも寄付によって運営されていることに驚いた。仏教文化が根づいておりミャンマー人はそれぞれ分相応の寄付をするという。初めての訪問であったが、人々は優しく穏やかで、ゆったりした時間が流れていた。好ましい介護人材が豊富な国のように思えた。写真（左）は病人

を受け入れている唯一つの老人ホーム（“Twilight Villa”）にて、創設者（左2人目）と。

（これらの活動は、公益財団法人森村豊明会、公益財団法人テルモ生命科学芸術財団及び一般財団法人MRAハウスの助成金を受けて実施された。心より謝意を表する。）